

博物館だより

No.4

平成18年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

第11回

小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集

みやこ町歴史民俗博物館友の会
みやこ町教育委員会 主催

楽しい楽しい夏休み。小学生のみなさんは何をして遊びますか。

水泳、キャンプ、旅行など、考えるところがワクワクしますね。

でもせっかくの長い夏休みですから、遊んでばかりではもったいないですよ。自分の住んでいる町や村の歴史を調べたり、おじいちゃん、おばあちゃんの話話を聞いたりしてみませんか？

みなさんが調べた歴史のことを作文にまとめてください。

◎小学5・6年生なら誰でも応募できます。

◎自分の住む町や村の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など、歴史のことなら内容は自由です。

◎作文は400字詰め原稿用紙3〜5枚程度にまとめてください。



♪作品の送付方法

左記の送付先へ個人または学校単位で作品を郵送してください。かならず、住所・氏名・電話番号・学校名・学年を明記してください。

♪送付先

〒824-0121

京都府みやこ町豊津1122-13

みやこ町歴史民俗博物館内

友の会事務局

♪締切日

平成18年9月8日

(当日消印有効)

♪結果発表

平成18年10月下旬。優秀賞には賞状・商品(図書カード)を贈呈します。また応募者全員に記念品を差し上げます。

ミニ企画展

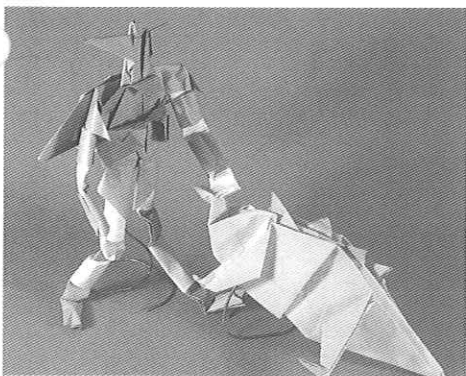
ORIGAMI

「折り紙〜
伝統と幾何学の世界展〜」

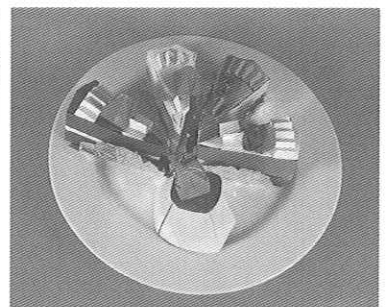
開催中!

現在当館では、ミニ企画展「ORIGAMI(折り紙展)」を開催しています。

今回のミニ企画展では、日本人が考案した、文字どおり「芸術的」な「つなぎ千羽鶴」や、ヨーロッパ発祥の幾何学的な模様折り、アニメキャラクター等々、約300点の作品を展示しています。また、希望する方には折り鶴を作っていたいただき(無料)、千羽鶴に仕上げて8月中に広島・平和記念公園に献納する予定です。



謎とたたかう正義の味方



▲折り紙のお菓子はいかが？

■開催期間

8月27日(日)まで

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館

■観覧料

ミニ企画展のみ観覧の方は無料。常設展は有料です。

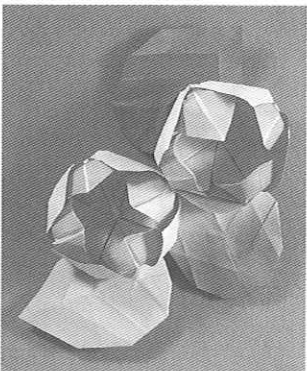
折り紙教室参加者募集!

●日時 8月19日(土)
午後1時30分〜

●場所 博物館研修室

●参加費 100円(実費)

●かならず、電話で申し込みをしてください。(博物館 ☎ 33・4666)。



▶蓮(はす)の花

みやこの「お宝(文化財)」拝見④

福岡県指定文化財

小笠原文庫

【所有者】豊津高等学校錦陵同窓会

【所在地】みやこ町歴史民俗博物館(寄託)

小笠原文庫とは

小笠原文庫とは何か、一言で説明すれば、「旧小倉藩主・小笠原家旧蔵の大名家文書を中心に、旧藩士から寄贈された文書等および近代の中等教育資料等を含む約七千点の史料群」ということとなります。少し難しいでしょうか。

幕末の慶応二年(一八六六)八月一日、長州との戦いに敗色を見た小倉藩は、自ら城と城下町に火を放ち小倉を退去します。しかし、この城と城下町の「自焼」は、あまりにも突然のことであったため、城下の住民は、文字どおり取る物も取り敢えず小倉から出て行かなければなりません。直後に小倉へ入った長州の山縣狂介(有朋)は、その回顧録の中で、「小倉城内には食料、藩札(紙幣)、書画などそのまま、市街には人っ子一人無く、どの家も家財道具は全てそのままであった。」と記述しています。小倉城が「自焼」した経緯の説明は省きますが、とにかく

く、城内はもろろん、町全体が大変なパニック状態となったのです。ギリギリセーフ

そんな中、城内にあった古文書や絵図の一部を運び出した人がいました。それが誰かは分かりませんが、おそらく数人のグループだと思えます。小倉城は、天保八年(一八三七)に火災に遭っていますので、その時に焼失した書類もあったと思われるが、それにし



◀ 駕籠

豊津藩印



ても、相当な量の書類が城内にはあった筈です。具体的に、どのくらいの量の書類や絵図を小倉城から持ち出せたのか分かっていませんが、あやうく、全て焼失するか長州に分捕られるかのところでしたので(藩校の教科書は一部分捕られました)、まさに「ギリギリセーフ」でした。

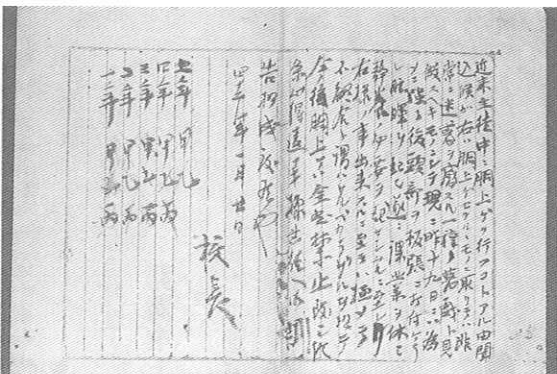
流転

その後、藩庁は田川郡香春を中心とした地域に置かれましたが、明治元年(一八六八)十一月、藩士百余名の投票によって、当時「錦原」と呼ばれていた豊津の台地に藩庁建設が決定したのです。工事は明治二年を中心に急ピッチで進められ、翌明治三年一月には、豊津の藩庁における執務が開始されています。この時期に、小倉城から持ち出された古文書類も、香春から豊津の藩庁へ運び込まれたものと思われる。

しかし、せっかく建設した「藩都」豊津も、短命のうちにその役割を終えます。明治四年(一八七二)七月、廃藩置県により豊津藩は豊津県となり、旧藩主・小笠原忠忱は、政府の指示により東京へ転住することになりました。さらに同年十一月には、豊津県は小倉県に統合され、旧豊津県の土地・建物は、小倉県のものとなりました。

廃藩置県と旧民政局

旧豊津県の役所の中で唯一、小倉県に取り上げられず、小笠原家の所有となったのが、民政局(領民支配全般を担当)の土地・建物です。場所は、現みやこ町立豊津小学校正門から北に約三十メートル、通称「御内家」と呼ばれている所で



▶旧制豊津中学で流行したイタズラによる「胴上げ」を禁止する校長の指示書(明治42年)

す。豊津県・小倉県へ引き継がれなかつた書類の多くは、この旧民政局の建物(小笠原家豊津別邸)に運びこまれました。その中には、小倉城から持ち出された古文書や絵図も含まれていました。

以後、これら古文書類は、明治・大正・昭和と激動する時代の中で、所有者の変わらない施設内において保管され続け、廃棄・散逸の危機を免れたのでした。

戦後の受難と保存措置

昭和二十四年七月、小笠原家が豊津別邸を引き払うことになり、建物内に所蔵していた古文書・古記録類も処分されることとなりましたが、一部が小笠原家から豊津高校・錦陵同窓会に寄贈されました。そしてこの史料群は、元々校内にあった育徳館時代以来の校史関係資料と合わせ、「小笠原文庫」の名が付されて、図書館の一室で保存されることになったのです。それからの「小笠原文庫」は、歴代の学校・同窓会関係者によって保存措置が講じられ、高度経済成長期からバブル景気、そして平成大不況という、ある意味混沌とした時代を、校内の安定した環境の中で送ることが出来たのでした。

小笠原文庫は、平成十七年二月に福岡県指定文化財となり、同年十月に旧豊津町歴史民俗資料館(現みやこ町歴史民俗博物館)に寄託され、現在に至っています。